



追加型投信 / 内外 / 資産複合 / 特殊型 (絶対収益追求型)

運用実績

2019年10月31日 現在



- 信託設定日 2016年5月13日
- 信託期間 2026年1月21日
- 決算日 原則、1月、7月の各21日  
(同日が休業日の場合は翌営業日)

|       |          |
|-------|----------|
| 基準価額※ | 11,713 円 |
| 純資産総額 | 33.6億円   |

※分配金控除後

| 騰落率 |       |
|-----|-------|
| 期間  | ファンド  |
| 1か月 | -0.7% |
| 3か月 | 2.4%  |
| 6か月 | 6.6%  |
| 1年  | 13.2% |
| 3年  | 15.0% |

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

|     |       |
|-----|-------|
| 設定来 | 17.9% |
|-----|-------|

設定来=2016年5月13日以降

| 分配金(1万口当たり、課税前)の推移 |      |
|--------------------|------|
| 2019年7月            | 10 円 |
| 2019年1月            | 10 円 |
| 2018年7月            | 10 円 |
| 2018年1月            | 10 円 |
| 2017年7月            | 10 円 |
| 設定来累計              | 70 円 |

・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

基準価額変動の要因分解(概算)

2019年10月31日 現在

|                        | 2019年8月 | 2019年9月 | 2019年10月 | 3ヵ月累計 |
|------------------------|---------|---------|----------|-------|
| 合計                     | 344 円   | 2 円     | -77 円    | 269 円 |
| 資産要因 <sup>※1</sup> 小計  | 333 円   | 49 円    | 4 円      | 386 円 |
| 国内株式                   | -2 円    | 0 円     | 0 円      | -2 円  |
| 外国株式                   | -81 円   | 97 円    | 126 円    | 142 円 |
| 国内債券                   | -4 円    | 0 円     | 0 円      | -4 円  |
| 外国債券                   | 384 円   | -54 円   | -131 円   | 199 円 |
| REIT・その他 <sup>※2</sup> | 36 円    | 6 円     | 9 円      | 51 円  |
| 為替要因                   | 29 円    | -28 円   | -63 円    | -62 円 |
| 信託報酬等                  | -18 円   | -19 円   | -18 円    | -55 円 |
| 分配金                    | 0 円     | 0 円     | 0 円      | 0 円   |

※1 先物・オプション・ETFを含みます  
※2 金、原油等

・上記の基準価額変動の要因分解は、一定の仮定のもとに委託会社が試算したものであり、直近3ヵ月の基準価額騰落額の要因を円貨にて表示しております。

コメント

2019年10月31日 現在

- 10月末の基準価額は11,713円と、9月末から77円下落しました。
- 国内株式への投資は基準価額に対して影響を与えませんでした。
- 外国株式への投資は基準価額に対して126円プラスに寄与しました。
- 国内債券への投資は基準価額に対して影響を与えませんでした。
- 外国債券への投資が基準価額に対して131円マイナスに影響しました。
- REIT・その他への投資が基準価額に対して9円プラスに寄与しました。
- 通貨配分が基準価額に対し63円マイナスに影響しました。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

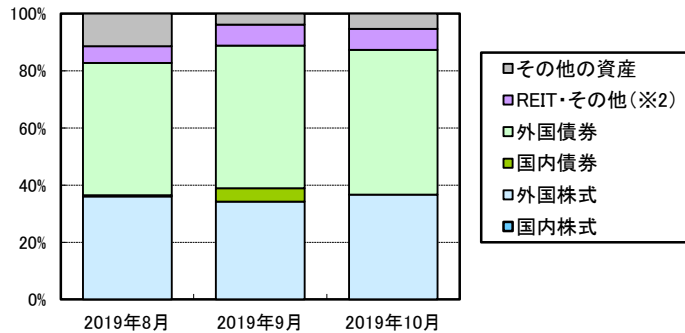
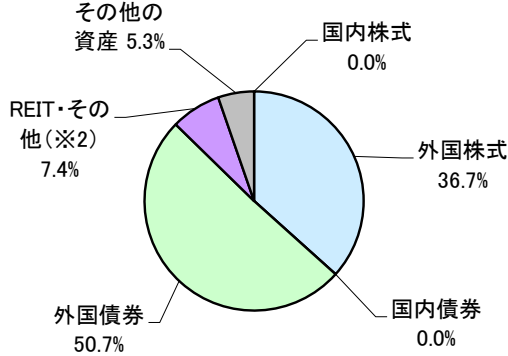
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



「野村ワールド・バランス・ストラテジー マザーファンド」の資産内容

2019年10月31日 現在

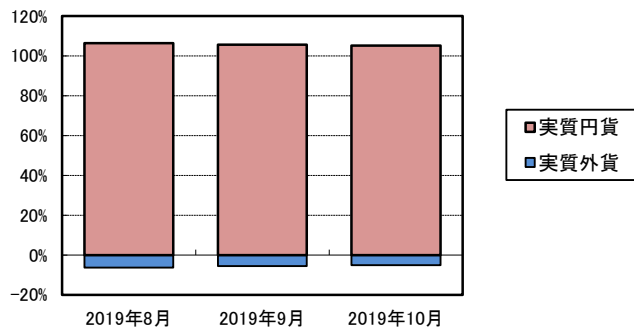
資産別構成比(純資産比)<sup>※1</sup>



※1 先物・オプション・ETFを含みます  
※2 金、原油等

実質通貨比率(純資産比)

|      |        |
|------|--------|
| 実質円貨 | 105.1% |
| 実質外貨 | -5.1%  |



・為替予約等を含めた実質的な円貨、外貨の推移を表示しております。

コメント

- 10月末時点では株式の投資比率を36.7%、債券の投資比率を50.7%、REIT等の投資比率を7.4%としています。
- 株式投資は、前月末程度の保有比率を維持しました(9月末34.2%→10月末36.7%)。引き続き世界景気の減速懸念を背景に、株式への投資を少なめに維持しています。
- 債券投資は、保有比率を前月末から引き下げました(9月末54.6%→10月末50.7%)。ECB(欧州中央銀行)や日銀などの各国中銀が、金融緩和手段が少ないことを背景に、先進国を中心に債券への投資姿勢を弱めました。
- 通貨配分は、為替ヘッジ後で日本円へ105.1%(9月末105.6%→10月末105.1%)、外貨へ-5.1%(9月末-5.6%→10月末-5.1%)としています。引き続きリスクオフに備えて円の買い持ちを多めに維持しています。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)、ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員

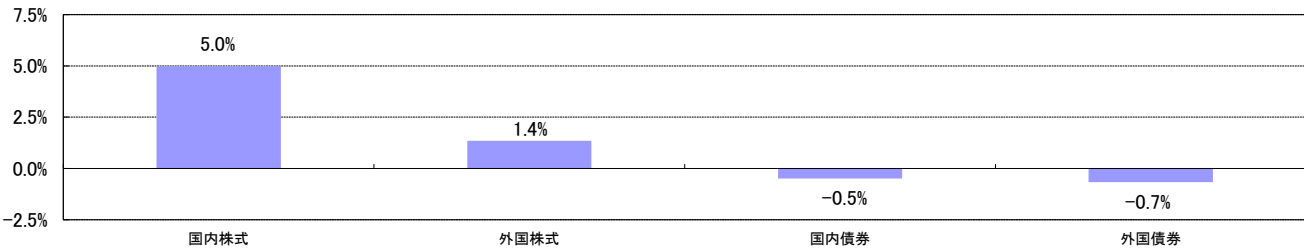


ご参考資料

追加型投信/内外/資産複合/特殊型(絶対収益追求型)

各市場の騰落率(月間)

2019年10月31日 現在



- ・出所:ブルームバーグ等のデータに基づき野村アセットマネジメント作成
- 日本株式: 東証株価指数(TOPIX)
- 外国株式: MSCI KOKUSAI index 円ヘッジ
- 国内債券: NOMURA-BPI 国債
- 外国債券: FTSE世界国債インデックス(除く日本 円ヘッジ)
- ・上記は過去のデータであり、将来を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

TOPIXの指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。東証は本ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を負いません。  
MSCI指数は、MSCIが独占的に所有しています。MSCI及びMSCI指数は、MSCI及びその関係会社のサービスマークであり、野村アセットマネジメント株式会社は特定の目的のためにその使用を許諾されています。ここに記載されたいかなるファンドも、MSCI、MSCI及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者のいかなる者もその合法性および適合性に関して判断したものではありません。また、これを発行、後援、推奨、販売、運用または宣伝するものでもなく、ここに記載されたいかなるファンドに関していかなる保証も行わず、いかなる責任も負いません。請求目録見書には、MSCIが野村アセットマネジメント株式会社およびその関連するファンドと有する限定的な関係について、より詳細な記述があります。  
NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村証券株式会社(以下「野村証券」といいます)に帰属しております。また、野村証券株式会社は、ファンドの運用成果に関して一切の責任を負うものではありません。  
FTSE世界国債インデックス(除く日本 円ヘッジ)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

市場コメント

2019年10月31日 現在

|         |  |
|---------|--|
| 国内株式市場  | 月初は、米国の軟調な経済指標の発表が続いたことを背景に、米国の景気減速懸念が高まり、国内株式市場は下落しました。しかしその後は、米中貿易協議の進展の報道などから、世界的にリスク回避姿勢が和らいで円安基調となったことを受け、国内株式市場は上昇し、月間で株価は上昇しました。                        |
| 外国株式市場  | 9月の米ISM製造業景況指数が市場予想に反して一段と下落したことを背景に、米国の景気減速懸念が高まり、外国株式市場は下落して始まりました。しかし中旬以降は、米中貿易協議が一部合意に達したとの報道や、市場予想を上回る米国企業の決算発表等を背景に上昇し、月間では外国株式市場は多くの地域で上昇しました。          |
| 国内債券市場  | 国内債券市場で、金利は上昇(債券価格は下落)しました。上旬に米中貿易協議が進展したことや、中旬以降、英国とEU(欧州連合)との離脱合意への協議が進展したことを背景に上昇しました。  |
| 外国債券市場  | 外国債券市場で、金利は上昇しました。米国債券市場では月末に、FOMC(米連邦公開市場委員会)が利下げを決定し、金利が低下する場面も見られましたが、月間を通してみると、米中貿易協議の進展を背景に、金利は上昇しました。中旬以降に、英国とEUとの離脱合意への協議が進展したことを背景に、欧州債券市場でも金利は上昇しました。 |
| REIT市場等 | J-REIT市場と外国REIT市場は、共に上昇しました。J-REIT市場では、J-REITがFTSEグローバル株式指数へ組み入れられることが決定したことを背景に、上昇しました。外国REIT市場は、米中貿易協議の進展や、米国金融当局者の利下げを支持する発言等を背景に上昇しました。                    |
| 為替      | 日本円は、対米ドル、対ユーロで下落しました(円安)。米中貿易協議の進展を背景に米ドルが上昇し、リスク回避通貨である日本円は下落しました。英ポンドに関しては、英国とEUが離脱条件の協議で進展したとの報道を受けて、英国の合意なき離脱リスクが大きく後退したことを背景に、月間での上昇が顕著でした。              |

当資料は、野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等は、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)

## ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 内外<sup>※1</sup>の短期有価証券および上場投資信託証券等の現物有価証券<sup>※2</sup>を実質的な主要投資対象<sup>※3</sup>とし、世界各国<sup>※1</sup>の株価指数先物取引、債券先物取引等の有価証券先物取引等および為替予約取引等を実質的な主要取引対象<sup>※3</sup>とします。
  - ※1 新興国を含みます。
  - ※2 当面は、内外の株式、債券、不動産投資信託証券(REIT)、商品等を対象とする上場投資信託証券(ETF)および内外の公社債に投資を行いません。
  - ※3 「実質的な主要投資(取引)対象」とは、「野村ワールド・バランス・ストラテジー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資(取引)対象という意味です。
- 運用にあたっては、世界の様々な指標の動きを計量的なアプローチを用いて分析し、定性的な判断を加え、リターンを追求するポートフォリオ<sup>※1</sup>を構築することを基本とします。ポートフォリオの構築にあたっては、リスク水準<sup>※2</sup>にも配慮します。なお、ポートフォリオについては適宜見直しを行いません。
  - ※1 各資産への配分比率については、定量分析・定性判断をもとに中長期的な観点から決定し、投資方針および投資制限の範囲内で変化させます。
  - ※2 リスク水準とは、対象資産における推定される価格変動の大きさのことです。
- 上場投資信託証券その他現物有価証券に投資を行なうとともに、株価指数先物取引、債券先物取引等の有価証券先物取引等および為替予約取引等を活用します。現物有価証券への投資ならびに有価証券先物取引等および為替予約取引等の活用にあたっては、世界各国の株式・債券・不動産投資信託証券(REIT)・商品・通貨等を対象とし、複数のロング・ポジションとショート・ポジションを組み合わせます。
- 現物有価証券(内外の短期有価証券を除きます。)への投資および有価証券先物取引等の買い建てによるロング・ポジションの合計と有価証券先物取引等の売り建てによるショート・ポジションの合計との差額(ネット・ポジション)は、原則として信託財産の純資産総額の0%~100%の範囲内とします。
- 為替予約取引等の使用については、外貨建資産の為替変動リスクを回避する目的(ヘッジ目的。代替ヘッジを含みます。)のほか、効率的に収益を追求する目的(ヘッジ目的外)で活用します。
  - ◆ 為替予約取引等のヘッジ目的外での使用については、買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額はマザーファンドの信託財産の純資産総額の100%以内とします。
- ファンドは「野村ワールド・バランス・ストラテジー マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 原則、毎年1月および7月の21日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。
 

分配金額は、分配対象額の範囲内で、利子・配当等収益等の水準および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込みの詳しい内容については、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員／一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員





追加型投信 / 内外 / 資産複合 / 特殊型(絶対収益追求型)

投資リスク

ファンドは、株式、債券およびREIT(不動産投資信託証券)等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落、金利変動等による組入債券の価格下落、組入REITの価格下落や、組入株式の発行会社、組入債券の発行体および組入REITの倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※ファンドの基準価額の変動要因には、この他にも、商品(コモディティ)市況変動リスク、代替手法に関するリスク、取引先リスクなどがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 2026年1月21日まで(2016年5月13日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則、毎年1月および7月の21日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円) または1万円以上1円単位  
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金の各お申込みができません。  
・ロンドン証券取引所 ・ニューヨーク証券取引所  
・ロンドンの銀行 ・ニューヨークの銀行
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

|                |   |
|----------------|---|
| ◆ご購入時手数料       | ご購入価額に2.2%(税抜2.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額<br>※詳しくは販売会社にご確認ください。  |
| ◆運用管理費用(信託報酬)  | ファンドの純資産総額に年2.035%(税抜年1.85%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。<br>*ファンドが実質的に投資対象とする上場投資信託証券は市場の需給により価格形成されるため、その費用は表示していません。                           |
| ◆その他の費用・手数料    | 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。<br>※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 |
| ◆信託財産留保額(ご換金時) | ありません。  |

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◀分配金に関する留意点▶

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時~午後5時

★インターネットホームページ★ <http://www.nomura-am.co.jp/>

<委託会社> 野村アセットマネジメント株式会社

[ファンドの運用の指図を行なう者]

<受託会社> 野村信託銀行株式会社

[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員

# 世界分散投資戦略ファンド

## 愛称:グローバル・ビュー

### お申込みは

| 金融商品取引業者等の名称 |          | 登録番号            | 加入協会    |                         |                         |                            |
|--------------|----------|-----------------|---------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|
|              |          |                 | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>日本投資<br>顧問業協会 | 一般社団法人<br>金融先物<br>取引業協会 | 一般社団法人<br>第二種金融商品<br>取引業協会 |
| 株式会社筑波銀行     | 登録金融機関   | 関東財務局長(登金)第44号  | ○       |                         |                         |                            |
| 株式会社大垣共立銀行   | 登録金融機関   | 東海財務局長(登金)第3号   | ○       |                         | ○                       |                            |
| 株式会社中京銀行     | 登録金融機関   | 東海財務局長(登金)第17号  | ○       |                         |                         |                            |
| OKB証券株式会社    | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第191号 | ○       |                         |                         |                            |

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。